

宇宙電波懇談会 集会 (2025秋)

- 日時：2025年9月11日(木) 11:50 (JST) = 2:50 (UTC)
- 場所：天文学会秋季年会 H会場 (海峡メッセ下関、海峡ホール) 及び Zoomによるリモート会議
 - <https://us02web.zoom.us/j/84308494823?pwd=IOin9VubTvlkEyQRQxefa3yk7p6lMu.1>
(ミーティング ID: 843 0849 4823, パスコード: 845125)
- 議題：
 1. 運営委員会の開催状況 (5分、田村@運営委)
 2. 日本学術会議関連報告 (15分、奥村)
 3. URSI 関連報告 (5分、久野 #online)
 4. 将来計画検討ワーキンググループの組織について (10分、田村@運営委)
 5. 宇電懇シンポジウムについて (5分、田村@運営委)
 6. 事務局報告 (5分、三澤@事務局 #online)
 7. その他、各種報告・意見交換 (15分)

この後、X. 銀河形成・進化セッション
がありますので、速やかな運営にご協
力ください。

1. 運営委員会の開催状況（5分、田村@運営委）（1/2）

- 第9回 (2025/4/28)
 - **将来計画WG委員の検討**：意向投票結果を確認し選考を開始。終了しなかったため、後日に議論を再開することとした。
 - **EAO/JCMT アンケート**：佐川ALMA-JSAC委員長を交えた意見交換(4/23)の結果を共有。JSAC-VLBI合同答申 (LPやVLBIへの参加)、日本からのEHT参加のために必要なJCMTへの貢献・経費負担のあり方、JCMT単独の投資意義や合理的な経費負担根拠の有無、JCMT利用に関する事務的な手続き整備 (例：科研費による観測時間支払い窓口の設置等)。
- 第9.1, 9.2, 9.3回 (Zoom 3回 + メール審議) (~2025/5/23)
 - **将来計画WG委員の決定**：→報告#4

1. 運営委員会の開催状況 (2/2)

- 第10回 (2025/08/08)
 - **2025年度宇電懇シンポ**：日時、場所について議論。テーマ（例：NAOJ実施計画へのインパクト、ALMA3、ほか）について頭出し。将来計画WGと相談を進めることとした。
 - **学術会議天文宇宙物理分科会未来の学術振興構想について**：2026年1～3月を目処に、提案計画に対する優先順位づけを行うことになった。宇電懇は地上計画が多いので、天文台ロードマップと足並みを揃える方針。将来計画WGのチャージとする。
 - **将来計画WG**：議長: 河野さん、副議長: 深川さん、新沼さんと決定。資料置場 (Google Drive) や意見交換の手段 (Discord, Slack) の整備について議論。今後、9月を目安に第1回を開催したい。

2. 日本学術会議関連報告

奥村幸子（日本女子大学）

日本天文学会・宇電懇集会（2025年9月11日）

26期日本学術会議・分科会報告

（1）日本学術会議法案のあり方に関する状況

（2）IAU分科会報告

（3）天文学・宇宙物理学分科会報告

(1) 日本学術会議のあり方に関する状況

◆ 2025年4月日本学術会議総会(第194回)

- 「日本学術会議法案の修正について」(決議) <https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20250415.pdf>
- 声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」(令和7年4月15日)

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-s194-s.pdf>

◆ 提出された法案と国会での審議状況

- 法案の審議状況と新法案での主な変更点
- 付帯決議・・・衆議院で11項目、参議院で14項目。会員任命拒否問題の説明責任、日本学術会議の独立性、自主性及び自律性の尊重を含む政府へ向けたもの。学術会議へ向けたものは衆議院・参議院で各1項目(組織や活動の透明性の向上と、政府とともにその責任と役割を果たす)。

◆ 法案成立後の状況

- 会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20250612.pdf>

- 今後の進め方について

法案の審議状況

2025年

- 4月14～15日 第194回総会(声明及び決議の採択)
- 4月18日 衆議院本会議(坂井大臣による法案趣旨説明・質疑)
- 4月25日 衆議院内閣委員会(趣旨説明、政府質疑)
- 5月7日 衆議院内閣委員会(参考人質疑・政府質疑)
- 5月9日 衆議院内閣委員会(政府質疑、討論・採決、附帯決議)
- 5月10日 **衆議院本会議**(討論・採決)
- 5月28日 参議院本会議(坂井大臣による法案趣旨説明・質疑)
- 5月29日 参議院内閣委員会(趣旨説明、政府質疑)
- 6月3日 参議院内閣委員会(参考人質疑)
- 6月5日 参議院内閣委員会(政府質疑)
- 6月10日 参議院内閣委員会(政府質疑、討論・採決、附帯決議)
- 6月11日 **参議院本会議**(討論・採決)
- 6月12日 石破総理大臣への共同声明手交
会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて」公表

(2025年5月9日衆議院内閣委員会)

※国会日程のうち下線は光石会長出席

新法案での主な変更点

6月第三部拡大役員会資料より
(部長作成)

	これまで	これから
位置づけ	国の特別機関	特別の法律により設立される法人（特殊法人）
目的	科学者の代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業や国民生活に科学を反映浸透させる	科学者の内外に対する代表機関として、学術の向上発達を図るとともに、社会の課題の解決に寄与する
会員数	210人	250人
部	第一部、第二部、第三部の定義を法制	記述なし
任期	6年、再任なし、満70歳誕生日末で退職	6年、1回に限り再任可、満75歳9月で退職
会長	会務を総理し、日本学術会議を代表する	特に優れた研究又は業績があり、人格が高潔で、会議の業務を適切かつ効果的に運営できる能力を有する会員
会員	優れた研究又は業績がある科学者、非常勤公務員	優れた研究又は業績がある科学者、みなし公務員
連携会員	優れた研究又は業績がある科学者から会長が任命	(会員以外の者が弾力的に活動に参加し会員に協力する仕組みに変更)
会員の選考	現行の会員が新たな会員の候補者を推薦して内閣総理大臣が任命	学術会議自身が会員を選任。外部の科学者からなる「選定助言委員会」が会員選考について意見を述べる
評価と運営		業務を監査する「監事」や、学術会議自身の自己点検評価に意見を述べる「評価委員会」を総理大臣が任命。
(執行部)	幹事会（会長、副会長、部長、副部長、幹事）	役員会（役員＝会長、副会長）＋会長指名会員
財源	日本学術会議に関する経費は、国庫の負担とする	必要と認める金額を補助することができる

会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて」(tennet : 2483)

日本学術会議の法人化を内容とする、政府提出の「日本学術会議法案」については、6月11日の参議院本会議において可決され、成立しました。

.....

法案が成立した今、日本学術会議もまた独立性、自主性、自律性を確保しながらナショナルアカデミーとしての役割を発揮していくためになすべきことをなさねばなりません。声明では、76年の歴史を有し世界の学界と連携して学術の進歩に貢献してきた日本学術会議が、これまで引き継ぎ、そして発展させてきた理念や使命が変わらず存続するよう、我々科学者自身で確認し、国民、社会に向けて誓約する必要があることを述べました。それに加え、これからも学術の振興を通じて文化を育み、平和で豊かな社会を作り、安心して生き甲斐があり、健康で文化的な国民生活の維持増進に貢献していくことを、新たな日本学術会議法が成立した今、改めて表明いたします。

そのために、新たな法律の下での日本学術会議のさらなる発展に向けて、日本学術会議においても準備、検討を開始いたします。そして、日本学術会議が自ら主導することで、日本学術会議の継続性を確保し国民や社会の期待に応える制度設計を進めてまいります。また、準備に際しては、政府とのコミュニケーションを図ってまいります。

最後に、今次の日本学術会議のあり方に関する議論を糧として、組織改革だけでなく、世界及び国内の社会課題の解決に寄与しつつ、学術の更なる発展のために自ら行動し、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」及び「日本学術会議第26期アクションプラン」による自らのさらなる改革を進め、次世代へと引き継ぐことを国民、社会に対し約束するという我々の宣言に従って、今後、活動を進めてまいります。

今後の進め方について

1. 会員による組織体制の検討

- 法人発足時の会員選考に関する検討(⇒候補者選考委員会)
- 組織体制(連携会員制度含む)・ガバナンス、基本的なルール(会則等)の検討(委員会の設置)
- 会員選考制度(法人発足後)(分科会の設置)、会長選考制度の検討
- 自己資金に関する方策・ルールの検討(WGの設置)
- 日本学術会議憲章の改訂に向けた検討(分科会の設置)

➡ 執行部を中心に検討体制(委員会等)を調整し順次立ち上げ(2025/7～)

2. 事務局において執行部等と相談しつつ検討

- 予算要求(上記の検討内容及びアクションプラン企画WGの検討内容等を踏まえつつ検討)
- 職員人事(専門人材の雇用含む)、報酬・給与、労務、法務、知財など諸規程の検討
- 情報システムの構築・移行 等

3. アクションプラン企画WGや委員会・分科会の活動

- 2026年9月まで着実に実施



(2)

IAU分科会 報告

■ IAU分科会 2025年7月29日(火) 第5回

➤ (1) 活動報告

- アルバニアのオブザーバー加盟について賛成投票
- 第32回 IAU総会 Final Report が完成
- APRIM 2026 @香港 2026年5月4－8日に決定
- 2026年度 IAUシンポジウム採択結果 9件(うち1件は国立天文台・三鷹で開催予定)
- 2024年 IAU PhD Prize 日本の受賞者なし(お願いあり)
- IAU WEBサイトの更新と新システムについて(お願いあり)

➤ (2) その他

- NAEC 日本チーム報告
- 「天文学と社会」連絡会について
- ”100 Hours of Astronomy” Celebrating 100 Years of the Planetarium について



IAU分科会 からの4つのお願い

■ IAU シンポジウム申請

➤ Lol 9/15 本申請 12/15 〆切

■ 会員(個人、ジュニアとも)入会申請

➤ 10月頃 募集開始、応募サイトオープン 12/15 〆切
• 学位取得後5年以上が目処、満たない方はジュニア会員へ申請を

■ PhD Prize へ積極的に応募を!

➤ 応募手続きは会員入会申請とほぼ同時期 〆切

■ IAU Web更新に伴い個人会員の情報更新手続きを

➤ 全員必須! TENNET [2742]メールを参照

(3) 天文学・宇宙物理学分科会報告

天文学・宇宙物理学分科会 2025年7月29日(火) 第5回

◆「未来の学術振興構想(改訂版)」

- オンライン説明会(5/27)などで趣旨説明と応募の推奨
- 8/1の意向表明、10/1の応募締切に向けた対応(提案者など)

◆天文学・宇宙物理学分野の将来計画の推進について

- **分科会として独自に**、天文学・宇宙物理学分野を俯瞰した観点で議論
- 「**未来の学術振興構想(改訂版)**」に**応募の計画を対象に**、**各コミュニティ及び機関の議論をオーサライズ**した上で、**時間・規模・手法を俯瞰した視点**から、分野として推進すべき計画をまとめる

「未来の学術振興構想（改訂版）」

「未来の学術振興構想」は、我が国の大型研究計画のあり方に一定の指針を与えてきたマスタープランに代わり、以下の方針で学術会議25期の提言として2023年9月に発出された。

* 「**中長期的視点と俯瞰的視野と分野横断的な検討**」により、我が国の科学者コミュニティとしての考え方を取りまとめて明らかにする。

* **今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の19の「グランドビジョン」**を提示。

* それぞれの「グランドビジョン」について、その実現の観点から必要となる「**学術の中長期研究戦略**」（今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の「**ビジョン**」とその実現に必要な「**学術研究構想**」）を示した。

* 19の「グランドビジョン」は、**多様な科学者コミュニティから提案された将来振興すべき学術の「ビジョン」**を取りまとめたものであり、**社会からの要請を念頭に科学者の自由な発想に基づいていることが大きな特徴の一つであり、かつ、重要な点である。**

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-t353-3.html>

* 前期の提言の発出から間もないことから**26期は大幅な見直しはせず**、19の「グランドビジョン」の実現及びより一層の充実のために必要な「**学術の中長期研究戦略**」を追加募集するとともに、「**未来の学術振興構想**」に掲載した「**学術の中長期研究戦略**」の「**学術研究構想**」の進展等に伴う改訂を実施。

（改訂方針 1. 背景と目的 より）

<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyukeikaku/26koubo.html>

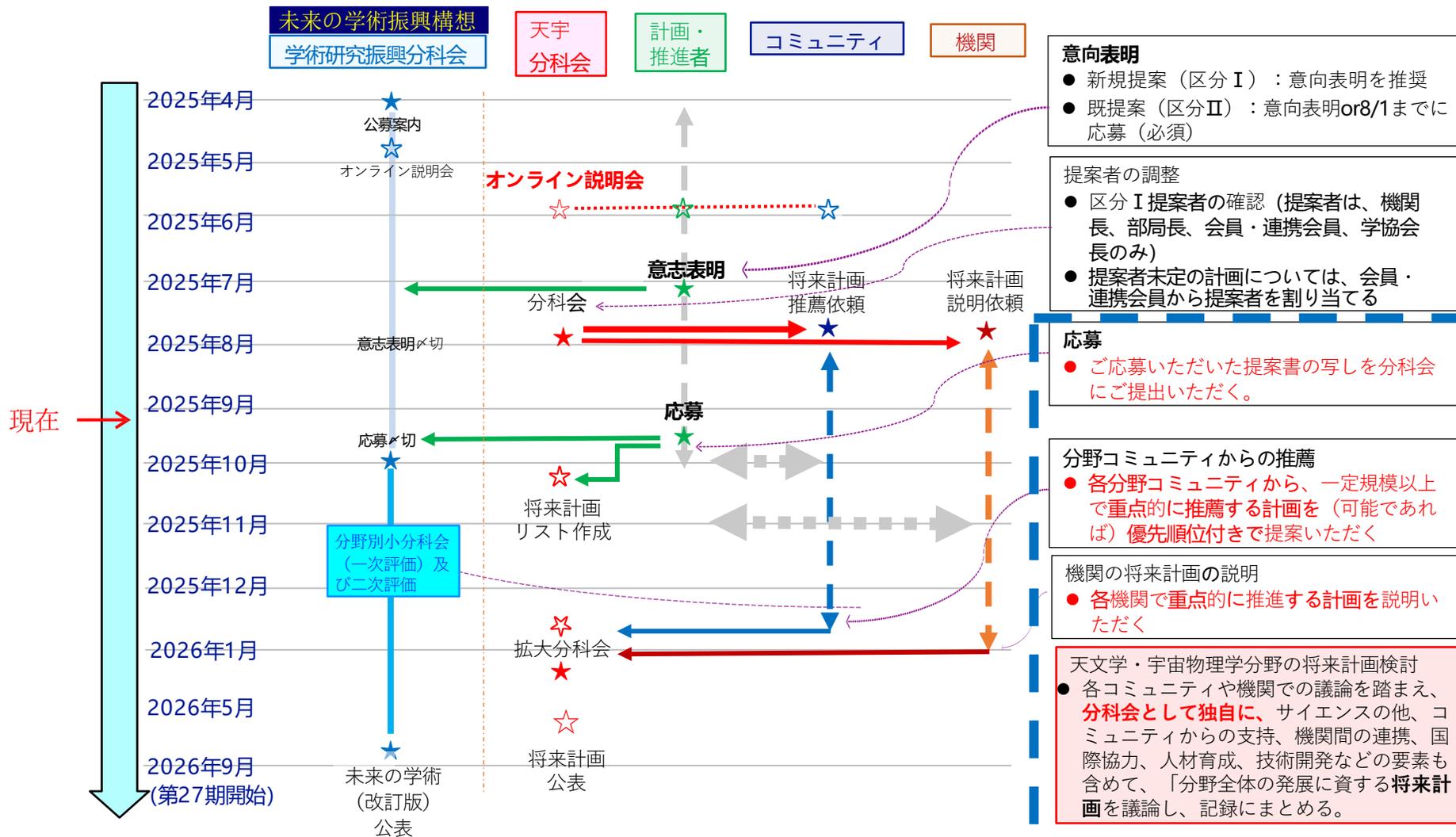
天文学・宇宙物理学分野の将来計画の推進について

－26期天文学・宇宙物理学分科会における**将来計画検討へのご協力**のお願い

●天文学・宇宙物理学分科会では、26期未来の学術振興構想にご応募いただいた将来計画と各コミュニティや機関での議論を踏まえ、**分科会として独自に**、天文学・宇宙物理学を俯瞰した観点で「分野全体の発展に資する将来計画」を議論致します。

- ✓ つきましては、**天文学・宇宙物理学の将来計画を推進する皆様**におかれましては、**26期未来の学術振興構想にご応募**いただき、**ご応募いただいた提案書の写しを分科会にご提出**お願い致します。（提出先は9月中にお知らせ致します。）
- ✓ 将来計画の議論に向けて、**コミュニティ代表者の皆様、機関代表者の皆様**に、**将来計画及びその検討（推薦）結果の分科会へのインプットのご協力**をお願い致します。（次ページの図参照：2026年1月の予定）

「未来の学術振興構想（改訂版）」と分科会での 将来計画検討に向けた流れ



3. URSI 関連報告

URSI (国際電波科学連合) 報告

久野成夫 (筑波大学)

- 第26期URSI J小委員会 (電波天文学)

委員: 赤堀卓也、泉 拓磨、江草芙実、久野成夫 (委員長)、
島尻芳人、新永浩子、高橋慶太郎、田村陽一

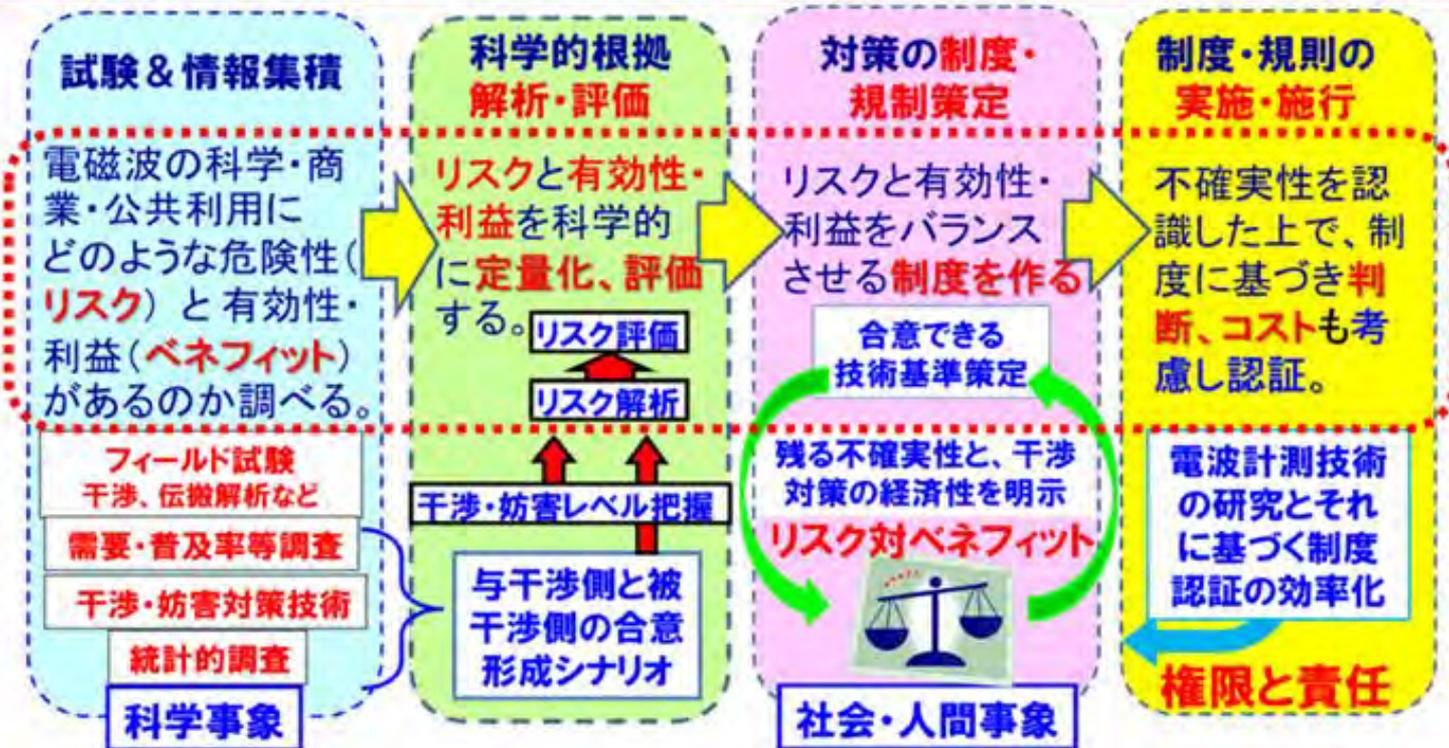
• 新たな小委員会の設置提案が承認された

「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」

電波資源の科学・商業・公共利用のあらゆるステークホルダーの
合意形成のためのレギュラトリーサイエンス

Stake Holders: 電波天文等の科学利用・携帯電話等の商業的利用・医療防災等の公共利用の利用者、提供者、研究者、省庁、自治体、企業他の人、組織等全般

電波の利用者、天文台やメーカー等を保護し、科学技術の進歩・ビジネス・公共サービスの両立



URSI国内小委員会

Commission

A : Electromagnetic Metrology

B : Fields and Waves, Electromagnetic Theory and Applications

C : Radiocommunication Systems and Signal Processing

D : Electronics and Photonics

E : Electromagnetic Environment and Interference

F : Wave Propagation and Remote Sensing

G : Ionospheric Radio and Propagation

H : Waves in Plasmas

J : Radio Astronomy

K : Electromagnetics in Biology and Medicine

- 各小委員会から30名以内の委員
- J小委員会からも、3名の委員を推薦予定

URSI関係の国際会議

- 2025 URSI Asia-Pacific Radio Science Conference (URSIアジア・太平洋電波科学会議)

2025年8月17日－22日
オーストラリア、シドニー



- 2028年 URSI AP-RASC 2028 富山に決定！

- XXXVIth URSI General Assembly and Scientific Symposium 2026

2026年8月15-22日
ポーランド、クラクフ



- URSI-GASS 2029

2029年8月11-18日
シンガポール



4. 将来計画検討ワーキンググループの組織について（10分、田村@運営委）

- **背景**：前回から約5年が経過、若手が活躍。会員にこだわらず将来の(電波)天文のステークホルダで組織。
- **あらたなチャージ**：
 - (1) **国立天文台サイエンスロードマップ・実施計画策定**と並行した将来計画の検討
 - (2) **未来の学術振興構想**の検討
- **新WG組織までの経緯**
 - ~1月：運営委員会で議論。組織の方針、諮問事項を策定。
 - 3月24日：宇電懇総会、新WG組織に関するアナウンス。
 - 3月28日~：**意向投票**（4月15日〆切）
 - ~5月23日：意向投票結果を参考に**運営委員会** (Zoom 3回 + メール審議) **でWG決定**。
 - 5月29日：WGメンバー就任依頼
 - 6月：WG再組織
 - 7月3日・15日：第1回WG会合（議長互選、諮問事項）

4. 将来計画検討ワーキンググループの組織について (cont'd)

- **構成**

- **方針1**：使命感・危機感をもって行動（発言、調整、執筆）してくださる方に依頼する。ただし、分野等の様々なバランスは考えるものとする。
- **方針2**：宇電懇会員に限らない。（外部委員の登用）
- **方針3**：専門家や計画メンバーをヒアリングに招聘できるものとする。各計画や国立天文台のコミットも必要。計画メンバーもWGメンバーとなることを妨げないが(例：方針1として選ばれた方が計画メンバーである等)、利益相反に配慮。
- 宇電懇運営(副)委員長は正メンバーにならない。（オブザーバ / ex officio）
- **人数**：宇電懇会員現在と同規模（~10名）。外部委員（~5-10名）、オブザーバ (NAOJ電波分野執行部 + SRM委員 + 隣接分野 + 学術会議会員、等)。
- **任期**：2年。期間延長は妨げないが最大2期とする。

宇電懇将来計画検討 WG メンバー

氏名	所属	職位・役職
委員 (12名)		
泉拓磨	国立天文台	准教授
江草芙実	東京大学	准教授 (前WG副議長)
遠藤光	デルフト工科大学	准教授
議長 河野孝太郎	東京大学	教授
齊藤俊貴	静岡大学	准教授
高橋慶太郎	熊本大学	教授
副議長 新沼浩太郎	山口大学	教授
西村淳	国立天文台	准教授
橋本拓也	筑波大学	助教
副議長 深川美里	国立天文台	教授
本間希樹	国立天文台	教授
百瀬宗武	茨城大学/国立天文台	教授
外部委員 (6名)		
相川祐理	東京大学	教授
稲見華恵	広島大学	准教授
田中雅臣	東北大学	教授
富田賢吾	東北大学	准教授
長尾透	愛媛大学	教授
山田亨	宇宙科学研究所	教授

オブザーバ (7名)		
大西利和	大阪公立大学	教授 (前WG議長)
齋藤正雄	国立天文台	教授・副台長
下条圭美	国立天文台	准教授
藤澤健太	山口大学	教授
本原顕太郎	東京大学/国立天文台	教授
田村陽一	名古屋大学	教授・宇電懇委員長
赤堀卓也	国立天文台	研究員・宇電懇副委員長

● WG議長、副議長の選出

- 互選。スケジュールの関係で意見分布の聞き取り、数名との話し合い。

- ▶ 自薦・他薦をつのる。
- ▶ 利益相反 (計画の中核を担う方) を慎重に考慮。
- ▶ 議長は責任を持って公平に進められる方から。
- ▶ 副議長を2名に。つぎの世代から。
- ▶ 海外の方や外部委員に依頼することは難しい。
- ▶ 得票数だけで決めるのも要注意。

WG 諮問事項

- (1) 日本の電波天文ロードマップの策定

- 国立天文台サイエンスロードマップ (NAOJ SRM) および実施計画へのインプット：

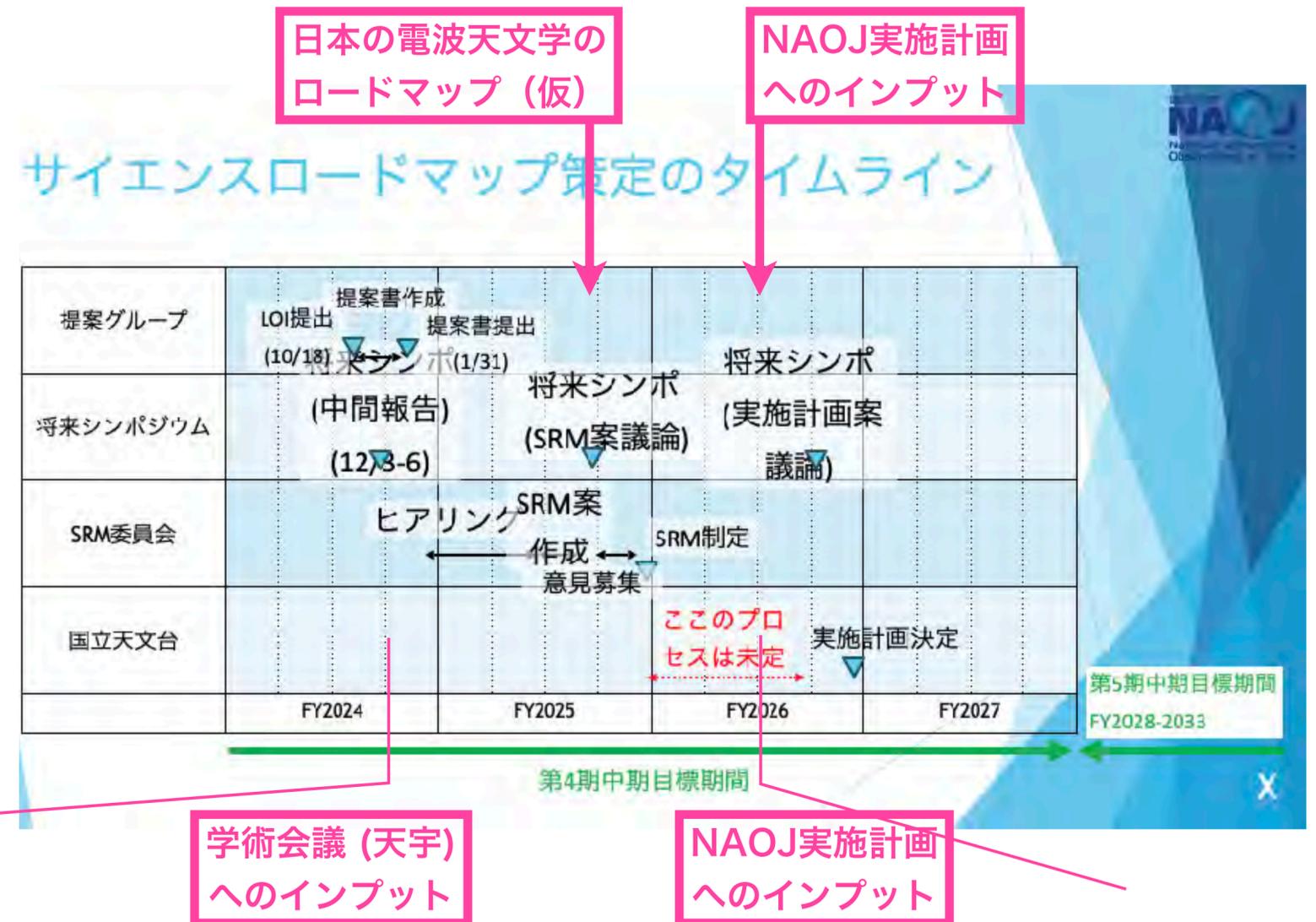
何を？	対象は、 現プログラム (アルマ2, アステ, 野辺山, 水沢, VLBI 大学関連携含む) と 将来計画 (ALMA3, ATT12/30, LiteBIRD, LST/AtLAST, ngVLA, SKA)。~2035年まで。
どこまで？	期間ごとに 優先度・順位 。実現可能な時間・予算・人的体制。競合する場合の体制。
いつまで？	2度のマイルストーン：NAOJ SRM (FY2025 Q3) 及び NAOJ 実施計画 (FY2026 Q2)

- **第26期未来の学術振興構想**：学術会議天宇分科会による募集。2023掲載計画の更新と新規提案の受付も。→地上計画が中心の宇電懇では、NAOJ SRMを完遂することで自然に決まるだろう。

- (2) 2025年度 宇電懇シンポジウムの企画：FY2025 Q4 を予定。（運営は運営委が担当）

NAOJ SRM・実施計画案へ向けたスケジュール

- FY2025 Q2: WG招集、第1回WG会合
- FY2025 Q3: NAOJ将来シンポで途中経過報告
- FY2025 Q4: 宇電懇シンポで途中経過報告
- FY2025 Q4: 各計画からNAOJへ実施計画のインプット (TBD)
- FY2026 Q2: 電波天文ロードマップ・NAOJ実施計画へのインプット



論点の整理

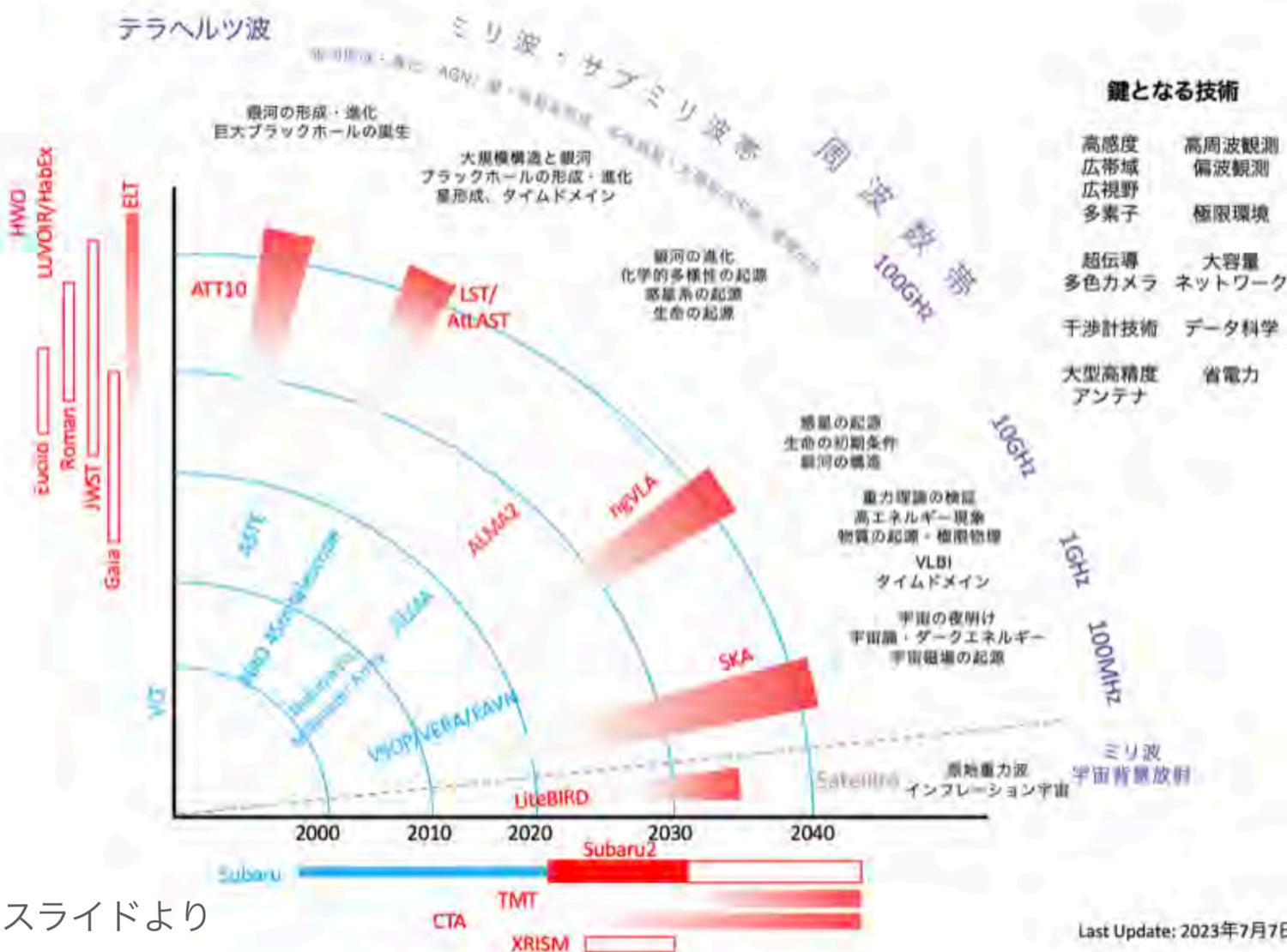
宇電懇シンポジウム (2025/1) を受けて

宇電懇シンポジウムでの課題

国立天文台と
コミュニティとで
しっかり協力して
将来像を描く

- 宇宙電波分野の大型将来計画は、誰がどう決めるのか？
 - サイエンスロードマップ策定委員会に「丸投げ」・・・？
 - 宇宙電波分野としての意思表示は？ 何が最優先？その先の優先度は？

- 既存の計画
- 既存の計画の拡張・発展
- 新たな計画、長期的な計画
- これらをどう整理して、
宇宙電波分野として、
他のコミュニティからも
理解され納得してもらえる
将来像を描くのか？



論点、争点 (1/3)

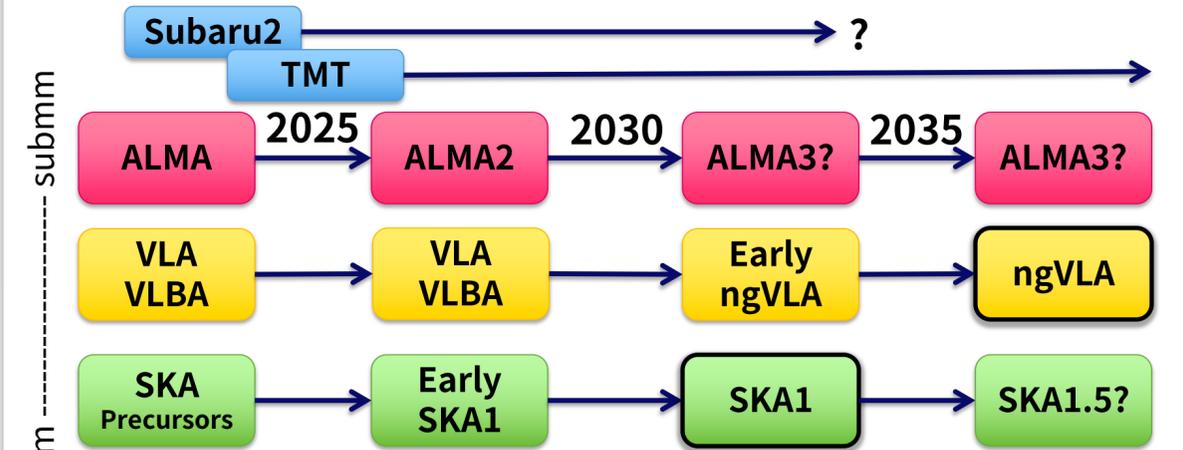
- ngVLA と SKA
 - (+) タイムスケールとフロンティア提案母体が異なる。並行した提案は理論的に可能。
 - (-) 内部的 (人的体制) にも対外的 (複数の「低周波電波干渉計」) にも、同時にフロンティアが採択・実行させられる見込みがあるか。
 - If yes: 実施計画は何か。その計画は成立するか。計画がないなら2026にNAOJ実施計画で優先度が決まるが、宇電懇はそれで良いのか。
 - If no: いずれかがdownselectされた場合の、プランBはなにか。(運営委員会としては、通った計画が落ちた計画を補う「包容力」のないプランに、「是」とは言えない。)
 - (-) 貢献割合20%や2%の科学的根拠はあるのか。譲歩の可能性はあるのか。

2024年3月4-5日
宇宙電波懇談会シンポジウム@国立天文台

SKA1-ngVLA 両プロジェクトの対比と相補性

赤堀卓也(SKAJ) & 泉拓磨(ngVLA-J)

タイムラインの対比と相補性



- ALMAとその将来発展がそもそも背景にあることに注意
 - SKA1は建設段階、予算措置済(20%不足ゆえ2028以降も建設継続か)
 - ngVLAは設計検討段階、予算待ち(TMT等を考慮するとDecadal2030以降か)

論点、争点 (2/3)

- センチ波～サブミリ波 (以下ミリ波と呼ぶ)
 - SKAが名大主導の提案で動き出した今、NAOJ側での資源のコンフリクトが浮き彫りになっている。ALMA2→ALMA3 があり、LST/AtLAST があり、ngVLA がある。野辺山45とアステも。
 - (+) 単一鏡はロードマップとしての共通認識が得られつつある (宇電懇シンポ 2025)。
 - (-) ミリ波はサイエンス的に地続き、かつ運用モデルも近い。にも関わらず、包括するロードマップがない。現観測所も含むミリ波ロードマップが作れないか (参考: UKの例; Kavli-IAU WS 2024; ESO Expanding Horizons募集)。
- 低周波/VLBI
 - 現観測所 (水沢、大学間連携)、SKAもまた地続き。低周波/VLBI ロードマップの策定に着手するとよいのでは。VLBI懇談会 (V懇) の活動との交流も必要。
- 波長で分けたくはないが、サイエンスで分けるなら「ミリ波」「低周波/VLBI」

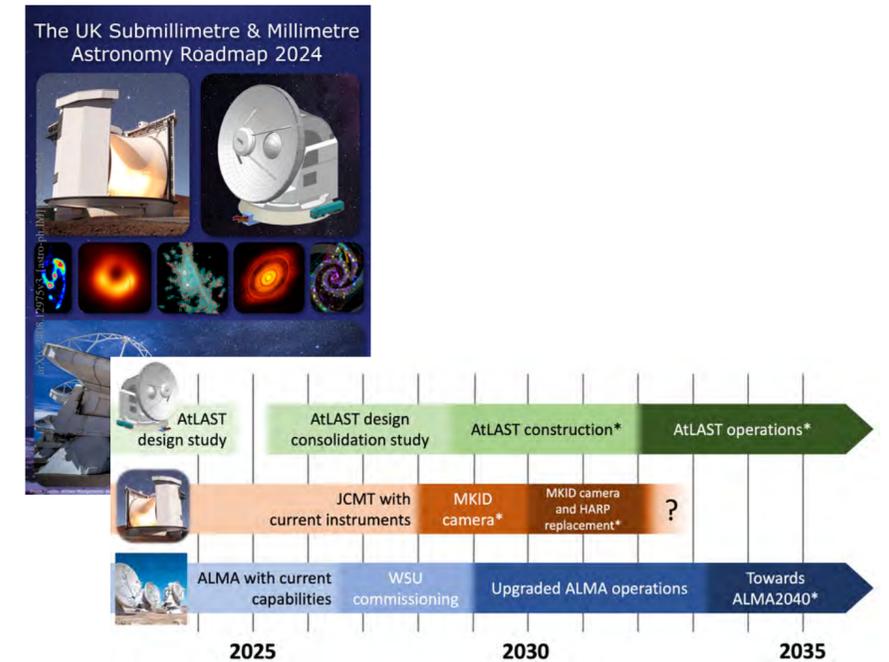
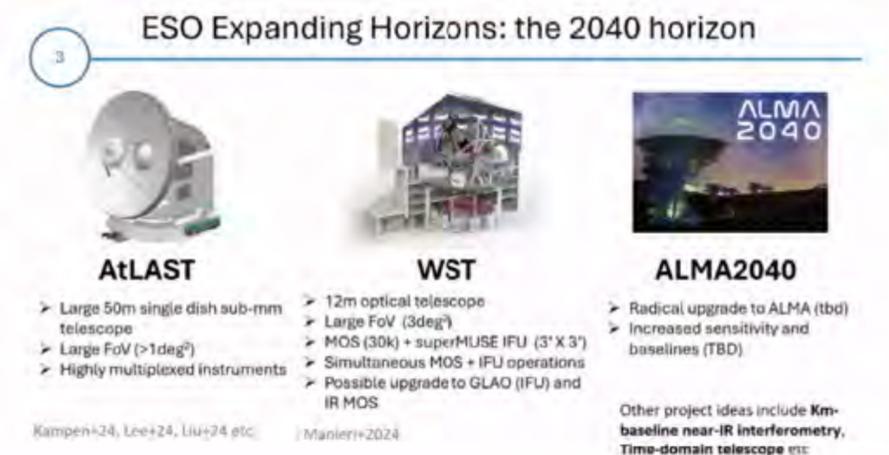


Figure 38: Indicative timeline. A * indicates an item that is not yet funded. The anticipated sequence of facility and instrument developments is as follows: JCMT instrument upgrades, followed by AtLAST, then ALMA 2040 (in other words: an essential upgrade to single-dish capabilities is earlier in the timeline, followed by the anticipated major upgrade of ALMA).

Pattle et al. 2024, arXiv:2408.12975



<https://next.eso.org/>

論点、争点 (3/3)

- 技術のロードマップ
 - 技術の蓄積と継承に寄与する計画か。スクラッチから立案する力を継続できるか。技術者やデータ科学者が「論文を書ける」魅力的な技術的挑戦があるか、そこで人材が育つか。
 - ハード面だけでなくソフト面、データ科学面でもサステナブルか。
 - エネルギー問題、量子計算技術、AI技術など、社会的要請とアラインするか。
- デリバラブルとしてのロードマップ
 - 優先度、順位づけ、SWOT分析
 - スケジュールは10年 (~2035) を当面のスコープとする。
 - 人的・金銭的資源の推移を境界条件とする。
 - 計画のリストでなく、計画間の相互関係と実現可能性を評価できる定量的な関係が必要。
 - 立ち上げ (commissioning) と立ち下げ (de-commissioning) も意識する。

5. 宇電懇シンポジウムについて（5分、田村@運営委）

- 今年度の宇電懇シンポの開催日程・場所が決まりました。テーマ等は追ってご連絡を差し上げますが、取り急いで日程の確保をお願いいたします。
- **日時：2025年12月23日(火) 13:00 ~ 25日(木) 17:00（2.5日間）**
- **場所：東京大学 本郷キャンパス 理学部1号館2階**
(12/23: 小柴ホール+ホワイエ; 12/24: SKY Lecture Room; 12/25: 207講義室)
- 懇親会：2025年12月23日(火) 夕刻、ポスターセッション会場（ホワイエ）を予定。
- 開催が少し早いですが、これは国立天文台の会場の確保が困難であることや、その他諸々の日程的制約によるものです。会場の手配は、東大の河野孝太郎さん(将来計画WG議長)、江草芙実さんほか東大天文センターのご尽力によるものです。
- 年末のお忙しい時期とは思いますが（しかもクリスマスで申し訳ありませんが！）ぜひご都合をつけてお越しくください。

6. 事務局報告 (対象期間：2025.4~2025.9)

事務局：三澤浩昭(取纏)、村山 卓(会員関係)、土屋史紀(web関係) (東北大・理)

● 総務関係：

- ・ 将来計画WG対応関係：意向投票実務担当, 将来計画WG委員 ML作成

● 宇電懇web関係 (<https://udencon.sakura.ne.jp/>)：

- ・ 2024年度 宇電懇シンポ 講演スライド, ポスターファイルのsakuraサーバへのアップロード
- ・ 2025年春 総会@2025/03/24 報告資料・議事録掲載

● 経理関係 (主財源：ご芳志, 主使途：宇電懇シンポ開催補助)：

- ・ 残額 61,082円 (本年度は現在まで出入無し)

● 会員管理関係：

・ ryunetのメール不達対応：

3月下旬にMicrosoftのメールサービスご利用の方がryunet宛メールを受け取れない事象発生。
送信元により、Microsoft側でspam扱いされ、配信されなかった可能性がある。

[対応] ryunetの配信を東北大学のメールサーバを迂回させて暫定対応。

また、メールサービス側でのspam扱い回避のため、4/21よりメールの送信者アドレスを以下のように変更。

From: “投稿者の表示名 (投稿者のメールアドレス)” <ryunet-admin@udencon.sakura.ne.jp>

●会員関係・会員動向（2025/4/1以降）

・会員数：2025.9.9時点	381名	
2025.4.1以降入会	15名	
2025.4.1以降退会	5名	
うち強制退会	5名	（退職や卒業を伴うメール不達者）
登録情報変更手続き	4名	

※皆様へのお願い：情報変更時は速やかにご連絡下さい。

大学等職員の方は周囲の学生の方へのお声掛けもお願いいたします。

#入会・変更届

- 加入希望者氏名(読み仮名付。旧姓使用など通称でも可)
- 連絡先住所（都道府県から。郵便番号も）
- 所属機関(空白可)
- 連絡先電子メールアドレス

※フォーマット(excel) を使用して頂けると手続きがスムーズです。

→ 宇電懇HP「入会退会変更手続き」をご参照下さい：<https://udencon.sakura.ne.jp/introduction.html>

※会費・入会金は無料です。